

26PB-am290

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを見据えた事前学習の構築

○益戸 智香子¹, 吉井 智子¹, 小島 可寿子¹, 小川 潤子¹, 小川 ゆかり¹, 小清水 治太¹, 田島 純一¹, 西牟田 章戸¹, 三原 潔¹, 小野 秀樹¹ (¹武蔵野大薬)

【目的】改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、低学年から基礎・応用・シュミレーション・実践を繰り返し学習する事が求められている。今年度より2年次生を対象に、学習へのモチベーション向上や計算能力維持、実験手技確認を目的とし、事前学習の早期実習の位置付けで基礎的調剤・実験実習を構築した。

【方法】2年次生155名を対象として2グループに分け、更に25～26名ずつ3班に分けた。各班に担当教員2名(計10名)を配置し、初日のオリエンテーション及び「散剤・軟膏調剤」「水剤・錠剤調剤」「実験手技」の3項目を、1日4.5時間ずつ計4日間(18時間)実施した。オリエンテーションでは、処方箋の見方・薬袋の書き方・秤取量の計算及び実験器具の使用法・濃度計算・検量線などの説明を行った。説明後に調剤計算40問・薬袋作成8問・実験手技4問の演習問題を、実習最終日には調剤計算60問・実験手技3問の試験を行った。また、実習終了後に5段階無記名アンケートを実施し、実習効果の評価を行った。

【結果】90%以上の学生が「有意義」と回答し、感想においても「早くに薬剤師の体験ができモチベーションが上がった」などの意見が多かった。85%以上の学生が「処方箋が理解できた」「検量線が作成できた」と回答し、ほぼ全員の学生が実習を円滑に終了した。また、試験の平均正解率は87%だったが、「計算ができた」「実験器具が扱えた」と回答した学生は60%以下だった。

【考察】改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを見据えた2年次早期実習は、有意義かつ満足度の高い結果となり、学習へのモチベーション向上にもつながった。学生が苦手意識の高い計算・実験手技においても、確認する良い機会となった。今後、3年次以降の学習への影響について検討を行っていきたい。